

令和2年度東京都立清瀬高等学校 経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

①学習活動

- ア 生徒の進路希望に合わせ、3年間の教科指導計画を策定し、授業担当で綿密な共通理解を図り、内容・指導レベル等について質・量とも適切な授業を教科として提供できた。
- イ 「学力スタンダード」に対応した年間授業計画を作成し、明確な目標に基づいた指導と評価を行うことで、指導内容・方法の改善が図れた。
- ウ 各教科において模擬試験の分析を行い、生徒の弱点を把握し、その後の授業において改善を図れた。また、その模試分析の結果を模試分析会において共有することができた。
- エ アクティブ・ラーニング推進校として、大学入学共通テストに向け、全教員がアクティブ・ラーニング型授業に取り組むことができた。また、生徒が能動的に授業に参加する姿勢を育成し、生徒の変容についても検証できた。
- オ 習熟度別授業を国語、数学、英語で実施し、主要3教科の指導効果を強化することができた。
- カ 長期休業日等の講習、補講については、コロナの影響を受け計画通りには実施できなかった。
- キ 家庭学習の習慣を身に付けさせ、自学の習慣を定着させることに努めたが、目標の一人2時間は達成できず。来年度以降も引き続きの課題である。また、チューターの活用もコロナの影響で計画通りはできなかった。
- ク OJTとして教科内外を問わず、授業参観を全教員で実施し、教員相互の授業力の向上を図れた。また、コロナの影響で制約されたが指導教諭等、他校の授業を可能な範囲で見学し、教科指導の改善に努めることができた。
- ケ オリピック・パラリンピック教育を推進し、体力の向上に努めることができた。
- コ コロナの影響で、海外学校間交流推進校として、Holy Spirit College への訪問は実施できなかったが、ネットを使った交流ができた。
- サ 理数研究校として、理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を拡大し、優れた素質をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばすことができた。大きな成果として、コロナの影響で中止となったが初めて「科学の甲子園」に参加した。

②進路指導

- ア 進学指導研究校として、国公立大学、難関私立大学、GMARCHといわれる大学を中心とした生徒の第一志望校合格を目指し、進路指導部が主導的立場で、各学年と連携を図りながら、組織的な進路指導ができた。
- イ 進路シラバスに沿った組織的な進路指導ができた、特に国公立大学への進路実績を大きく伸ばした。
- ウ 進路情報等をタイムリーに提供したり、計画的なガイダンスを実施することにより、生徒の進路実現へのモチベーションを高めることができた。
- エ 模試分析会と年3回のケース会議により、情報の共有化に努め、教科指導と進路指導の充実が図れた。
- オ クラッシーの組織的な活用を進めることができた。特に休校中には課題配信等に活用した。
- カ 生徒一人一人の進路希望実現に向け、進路意識を高め、主体的な進路選択ができるよう計画的なキャリア教育を進めることができた。

③生活指導

- ア 社会人として必要な礼儀やマナーを指導し、生徒の自律心を磨き、国際的にも通用する社会性を高めた。
- イ 遅刻、頭髪、制服指導は、生活指導部が中心となり、学年、家庭と連携し、組織的、継続的に取り組むことができた。遅刻者数を減少させることは来年度も継続課題である。
- ウ 時間厳守を徹底し、学習と部活動等との両立ができるはじめある生活習慣の確立に努めたが来年度以降も課題。
- エ コロナの影響で学校行事が中止となり、行事を通じて生徒の主体性を育成することができなかった。

オ 道徳の指導を充実させ、奉仕や思いやりの心と公共心を育成し、健康で安全な生活に必要な能力と態度を育てることができた。

カ 自らが自己の安全を確保できるよう指導できた。

④特別活動・部活動

ア コロナの影響で、障害のある児童・生徒との交流ができず、心のバリアフリーを育てることができなかった。

イ 読書感想文コンクールと書評合戦が実施できなかった。読書活動を推進することは継続課題である。

ウ 生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進し、各部活動の活性化・充実を図れたが、コロナの影響による部活動の制限や大会中止は、生徒たちの活動に達成感を与えることができなかった。

エ 部活動顧問も生徒の学力を把握し、担任や教科担任と協力し、生徒の学力向上の支援に努めることができた。

オ スポーツ特別強化校、文化部推進校として、指定部活動の一層の強化と、他の部活動の活性化を図れた。

カ 部活動を通じて主体的に行動する力とコロナの影響で機会は減ったが、地域社会に貢献する態度を育成できた。

キ 文化・スポーツ等特別推薦の実施により、応募倍率を上げ、部活動と学校全体の活性化を図ることができた。

⑤健康・安全

ア 学校保健計画に基づき、保健委員会が中心となって生徒の健康の保持増進を図り、安全確保を徹底できた。特にコロナ対しては安全対策に努めてくれた。

イ 教育相談の機能をより充実させ、生徒の心と身体の悩みに対応し、自殺、いじめ等の問題行動を防止することができた。継続して生徒の精神的自立に向けた取り組みを推進する。

ウ コロナの影響で宿泊防災訓練は中止となったが、薬物乱用防止教室、セーフティ教室等を活用し、自他ともに命の大切さについて考えさせることができた。

エ 都の改修計画を見据えながら、経営企画室が中心となった施設・設備の老朽化対策を行うことができた。

(2) 広報活動

ア ホームページを毎日更新し、本校の教育活動を中学生やその保護者、本校保護者や地域の方々に発信できた。

イ コロナの影響を受け機会は減ったが全教職員協力の下、校内での学校説明会・学校見学会、校外での学校説明会・塾訪問等で広報活動を行うことができた。学校案内を一新した。

ウ 校内での学校説明会と学校見学会において、生徒が自主的・主体的に清瀬高校をアピールする姿勢を育成した。

エ コロナの影響で地域に密着した教育活動が実施できなかった。

(3) 学校運営

ア ライフワークバランスの推進に向け、各種会議の開催時間厳守や50分以内の会議運営はほぼ定着してきた、留守番電話の活用とクラッシーを利用した欠席等の連絡システムは実現できなかった。また、部活動の外部人材の活用を積極的に進め、部活動業務の削減を図れた。

イ 企画調整会議の内容の周知を徹底し、全教職員が同一の方向に向かった教育活動を行うことには課題が残る。

ウ 教科会、教科主任会、主幹教諭会議や拡大分掌会を開催し、組織的・継続的な学校運営を行うことができた。

エ OJTを活用した人材育成を浸透させ、管理職候補者、主幹教諭、主任教諭の育成に努めることができた。

オ 経営企画室による学校経営参画を進め、企画室職員と教員が連携した学校運営を推進することができた。

カ 体罰防止、服務事故防止及び個人情報管理について意識を高め、組織的に安全管理を実施することができた。

キ コロナの影響で地域や保護者と連携した行事が少なく、開かれた学校づくりを推進することができなかった。

(2) 重点目標への取組と自己評価（()内数値はH31実績）

①学習指導—組織的、計画的な教科指導の充実

ア 1、2年生の自学時間：1日平均120分以上（42分） 【今年度】 58分

イ 授業満足度：80%以上（71.0%） 【今年度】 73.4%

ウ 長期休業中の開講講座数80講座以上（60講座） 【今年度】 23講座

②進路指導—国公立、私大難関大学等第一志望校への進学実現

ア 国公立大学現役合格者数：22名以上（11名）	【今年度】	21名
イ 難関私立大学現役合格者数：15名以上（14名）	【今年度】	14名
ウ GMARCH 現役合格者数：90名以上（73名）	【今年度】	94名

③生活指導—自律した生活習慣の確立

ア 生徒の学校生活満足度：90%以上（87.4%）	【今年度】	82.9%
イ 交通事故：0件（0件）	【今年度】	0件
ウ 年間遅刻者数：1700回以下（1830回）	【今年度】	1632回

④特別活動・部活動—気力、体力の充実と向上及び学習と部活・行事との両立

ア 図書貸出数：1300冊（1231冊）	【今年度】	862冊
イ 部活動参加者数：95%以上（93%）	【今年度】	95%
ウ 部活動都ベスト32以上の成果：10部（8部）	【今年度】	9部

⑤広報活動—清瀬高校の教育活動、魅力を広く紹介するための広報活動の充実

ア ホームページ更新回数年間：470回（458回）	【今年度】	417回
イ 学校説明会参加者数：3200人（3026人）	【今年度】	2274人
ウ 入試倍率：推薦3.00倍以上（2.24倍）	【今年度】	2.85倍
一般1.35倍以上（1.18倍）	【今年度】	1.31倍

2 次年度以降の課題と対応策

- (1) 生徒の第一志望校への進路実現を図る。特に国公立大学合格者を増やす。
- (2) 「海外学校間交流推進校」として、海外研修やTGG訪問等を活用し異文化体験や英語教育の充実を図る。
- (3) 理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げ、さらにそれらの生徒の才能を伸ばす。
- (4) 学習、行事や部活動を通じて、自立できる生徒を育成する。
- (5) ネット環境の整備を進め、オンラインの積極的活用・定着に取り組む。